

行書・草書研究Ⅰ

科目ナンバリング JLN-303
選択 2単位

山本 晃一

1. 授業の概要(ねらい)

「行書」「草書」というと「崩し字」、つまり「楷書が崩れたもの」といったイメージをもっているのではないのでしょうか。「行書」も「草書」も、活字が普及する前は誰もが当たり前のように読めて、書けたものでしたが、今では書道以外で触れる機会は少ないのではと思います。しかし、古代の日本にそれらが伝わりやがて独自の発展を遂げたことにより、文学・美術にとどまらず今日まで続く多くの日本文化の基底にその精神が宿りました。つまり、「行書」「草書」を学ぶことは日本文化のルーツを学ぶことであると言っても大げさではないのです。

この授業では、中国や日本における代表的な「行書」「草書」の名品を、観て、書いて、考えることで、日本文化の歴史を学びます。

2. 授業の到達目標

- 1 行書・草書の学修を通して日本文化の歴史を学ぶ。
- 2 行書・草書を書くスキルを身に付け、日常の様々なシーンで活かせるようにする。
- 3 教職課程履修者は「書写」や「書道」の授業担当者としての基礎的・基本的な資質を身に付ける。

3. 成績評価の方法および基準

授業各回への取り組み方(50%)、授業を通しての文字の変容度・提出物の内容(50%)、をみて総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

必要に応じてプリントを配布します。

5. 準備学修の内容

書道には「目習い」という言葉があるように、日ごろから「行書」や「草書」を目にするだけでもいろいろな事が学べます。文学、美術だけでなく、寺社仏閣などの古い建造物、街中の看板など、日常のあらゆるところに「行書」「草書」は隠れていますので、アンテナを張り巡らせて多彩な書の魅力に気が付けるようにしましょう。

6. その他履修上の注意事項

実技の道具(書写のセット、鉛筆など)が必要です。詳しくは第1回の授業で説明します。

実技だけで評価が決まるわけではありませんので履修に際して書道経験の有無は関係ありません。興味がある人、行書や草書を書いてみたいという人、崩し字が読めるようになりたい人など、文験者も未経験者も、毛筆による表現の楽しさに触れながら学びましょう。

7. 授業内容

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 【第1回】 | ガイダンス、用具用材について |
| 【第2回】 | 行書・草書を書くための基本 |
| 【第3回】 | 名品に学ぶ① 王羲之「蘭亭序」Ⅰ |
| 【第4回】 | 名品に学ぶ② 王羲之「蘭亭序」Ⅱ |
| 【第5回】 | 名品に学ぶ③ 王羲之「集字聖教序」Ⅰ |
| 【第6回】 | 名品に学ぶ④ 王羲之「集字聖教序」Ⅱ |
| 【第7回】 | 名品に学ぶ⑤ 褚遂良「枯樹賦」 |
| 【第8回】 | 名品に学ぶ⑥ 褚遂良「哀冊」 |
| 【第9回】 | 名品に学ぶ⑦ 顔真卿「争坐位文稿」 |
| 【第10回】 | 名品に学ぶ⑧ 顔真卿「祭姪文稿」 |
| 【第11回】 | 名品に学ぶ⑨ 米芾「蜀素帖」 |
| 【第12回】 | 名品に学ぶ⑩ 黄庭堅「黄州寒食詩卷跋」 |
| 【第13回】 | 名品に学ぶ⑪ 日本の行書Ⅰ 空海「風信帖」 |
| 【第14回】 | 名品に学ぶ⑫ 日本の行書Ⅱ 小野道風「屏風土代」・藤原佐理「詩懷紙」 |
| 【第15回】 | まとめ、作品提出 |